

第2学年 社会科学習指導案

日時：平成17年10月5日（水）

学級：2年3組 男子17名 女子18名 計35名

授業者：伊藤 孝行

1 単元名 「立憲政治の始まりと日清・日露戦争」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

全体的に明るく、授業に真面目に取り組む生徒が多い。また、男子を中心に授業中の発言も多い。しかし、時にけじめに欠ける面も見られる。

社会的事象への関心・意欲・態度については、社会科の学習に対する取り組み姿勢は前向きであり、社会科に対して苦手意識をもつ生徒も若干見られるが、全体的に見れば、意欲的に取り組んでいる。

社会的思考判断能力については、社会的事象から課題を見だし、予想をたてることはできているものの、断片的な知識での予想であり、多面的・多角的に考察するというところまでは至っていない。

資料活用の技能・表現については、グラフ・資料の読解の基本的な事項は必要に応じて指導しているものの確実に定着しているとはいえず、表現力とともに今後の指導が必要である。

社会的事象についての知識・理解については、歴史的事象に詳しく、知識のある生徒はいるものの断片的である。また、語句の暗記に終始しているものも見られる。したがって、歴史を大きな流れとしてとらえ、既習事項や世界の歴史との関連を図る指導を行う必要がある。

(2) 教材観

本単元は、前単元の「明治維新」の学習をうけて、急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを、自由民権運動と大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正を通して学習する。

明治政府の課題は、欧米諸列強に対抗しうる内実を早期に育成し独立国家として自立することにあった。そのため、政府は、徴兵令、地租改正、殖産興業、学制を初め、政治、軍事、経済などあらゆる部門での改革を推進していく。しかし、あまりに改革の動きが性急だったため、様々な社会的混乱や国民各層からの抵抗を巻き起こすことになる。このような明治維新を経て、専制政治を批判するという形で、自由民権運動が盛んになる。一方で政府は、着々と立憲政治への転換のため準備を進め、大日本帝国憲法の発布、帝国議会の開設などを経て、アジアで唯一の立憲国家となっていく。この間に日本をめぐる国際環境も変化し、イギリスはロシアの積極的な極東進出に対抗するため、日本の条約改正に応じる。日本は朝鮮の支配権をめくり以前から対立していた清国と衝突し日清戦争にいたる。軍備の近代化を進めてきた日本が勝利するが、ロシア・フランス・ドイツの三国干渉もあり、日本の反ロシアの感情は高まっていく。大陸進出の機会をうかがっていた日本は、ロシアと真向から対立し、日英同盟を経て、日露戦争にいたる。この戦争にも日本が勝利し、日清・日露の二度にわたる戦争の勝利やその背景にある日本の近代化によって、我が国の国際的な地位が向上していくことになる。

(3) 指導観

社会科における生徒の知識・理解が断片的で単なる語句の暗記で終始している生徒

がある実態をふまえ、既習事項や本・マスコミから得た知識や実生活に照らし合わせながら、矛盾や疑問を発見し、それを追究していこうとする能動的学習態度を育成したい。そのために、課題解決型の学習という手法を用いて生徒の興味・関心を喚起し、学習意欲を高めるような学習を展開したい。

3 単元目標

- (1) 急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましに対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 自由民権運動と大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正を通して、我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを多面的・多角的に考察し、公正に判断している。【思考・判断】
- (3) 急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましに関する文献、絵画、グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。【技能・表現】
- (4) 急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを、当時の国際情勢を背景に理解し、その知識を身に付けている。【知識・理解】

4 指導計画

国会開設を目ざして	-----	2 時間
立憲政治の始まり	-----	1 時間
朝鮮をめぐる戦い	-----	1 時間 (本時)
激動する東アジア情勢	-----	2 時間
地図から消えた韓国	-----	1 時間
各地に工場が	-----	1 時間
糸を引くのも国のため	-----	1 時間
広がる新しい生活	-----	1.5 時間
単元テスト	-----	0.5 時間
単元末コース別学習	-----	1 時間

5 評価規準

「別紙参照」

6 本時について

- (1) 主 題 朝鮮をめぐる戦い (条約改正と日清戦争)
- (2) 目 標 ・ 我が国の国際的地位の向上を具体的な歴史的事象から理解し、我が国と欧米列強との関係を世界的な視野で考えることができる。
・ 極東をめぐる我が国や欧米列強の利害関係から我が国の国際的地位向上に向けた動きについて意欲的に追究することができる。

(3) 指導の構想

本単元においては、これまでの歴史学習をもとに、「日清戦争」と「欧米諸国の東アジア進出」を取り上げ、極東をめぐる我が国や欧米列強の利害関係をふまえながら、世界的な視野から我が国の歴史を考えさせたい。

そのためには、我が国の動きだけでなく、欧米列強各国の視点にたった資料から学習を展開する必要がある。また、外国人の視点から描かれた風刺画からも当時の国際関係を読みとる手がかりとしたい。

また、資料の提示について、できるだけ視覚で訴えるように資料を加工し、コンピュータを活用することで、より関心を深めるよう工夫したい。生徒の今後の学習の手がかりとなるような資料については、学習シートとして手元に残させるよう指導したい。

(4) 具体の評価規準

	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する生徒への手だて
関心 意欲 態度	我が国の国際的地位の向上の経緯について関心をもち、自主的に調べることができる。	我が国の国際的地位の向上の経緯について関心をもつ。	我が国の国際的地位の向上の経緯について、視覚に訴えるように資料を活用し、興味・関心をもてるようにする。
思考 ・ 判断	我が国と欧米列強との関係について、我が国と欧米列強それぞれの立場に立って考え、以後の歴史への影響を考慮することができる。	我が国と欧米列強との関係について、我が国と欧米列強それぞれの立場に立ってその理由を考慮することができる。	我が国と欧米列強の関係が理解できるような資料を準備し、思考・判断に必要な事実が把握しやすいように支援する。
知識 ・ 理解	我が国の国際的地位について、世界的な視野から理解することができる。	我が国の国際的地位の向上について理解することができる。	我が国の国際的地位の向上は、欧米列強の利害が大きく関わっていることを把握できるよう、資料提示等を工夫し、支援する。

7 本時の展開

段階	学習過程	生徒の活動	教師の指導・支援	評価・備考 = 評価
導入 5分	1 前時の想起	1 前時の学習内容の想起。	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを解答し，本時につながるような補説を加える。 ・日清戦争で日本が勝利したことを想起させる ・資料から，欧米列強がアジアに進出していることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で行う。想起できたか。 <p>プレゼンテーション 「欧米諸国のアジア侵略」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三国干渉にふれる学習シート
	2 学習課題の設定	2 学習課題を設定する。		
展開 35分	3 予想	3 課題に対する予想をたてる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自由発言をまとめる。 「日英の結託」 「三国との関係が悪い」 ・「日清戦争」及び「欧米諸国のアジア進出」について追究することを確認する。 ・「日清戦争」の経緯について朝鮮侵略をふまえながら確認する。 ・「日清戦争」の結果から，三国干渉に歴史が動いていくことを確認する。 ・ロシアが朝鮮や清をねらっていることを把握する。 ・ロシアが「不凍港」を求めて南下政策を展開していることを確認する。 ・ノルマントン号事件が契機となることを確認する。 ・日本の条約改正に向けた動きとイギリスとの利権が一致したことを確認する。 ・イギリスが日本を操り，ロシアの南下政策を食い止めようとしていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「甲午農民戦争」 ・日清戦争の原因について着目させる
	4 学習方法の確認	4 追究方法と内容を確認する。		
	5 事実の追究1	5 「日清戦争」について事実を追究する。		
	6 事実の追究2	6 「欧米諸国のアジア進出」について事実を追究する。		
終結 10分	7 課題の検証	7 課題の解決を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアが「不凍港」を求めて南下政策を展開していることを確認する。 ・ノルマントン号事件が契機となることを確認する。 ・日本の条約改正に向けた動きとイギリスとの利権が一致したことを確認する。 ・イギリスが日本を操り，ロシアの南下政策を食い止めようとしていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロシアのアジア進出」 ・タコの足がどこに伸びているかに着目させる。 ・「ノルマントン号事件」 ・「火中の栗」 ・けしかけられている様子をとらえさせる。 日本と欧米列強との関係を理解できたか。
	8 認識の統合	8 認識の統合を図る。		
	9 次時の予告	9 次時の学習内容を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> 日本の国際的地位向上に向けた動きを意欲的に調べたか。